

会議名	令和3年度第2回青少年問題協議会専門委員会		
事務局（担当課）	児童青少年課		
開催日時	令和3年12月23日（木）午前10時00分～午前11時30分		
開催場所	桜並集会所 集会室A		
出席者	委員	黒須委員、浅野委員、金井委員、後藤委員、小山委員、八木委員、鈴木委員、倉持委員、大貫委員	
	その他	欠席：佐藤委員、大内委員	
	事務局	鈴木児童青少年課長、前田児童青少年係長	
傍聴の可否	可	傍聴者数	1人
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 専門委員会による調査、協議のテーマについて (2) その他 3 閉 会		
提出資料	○ 令和3年度第2回小金井市青少年問題協議会専門委員会 次第資料3 研究・調査の方向性 参考資料 ・ 青少年問題協議会における過去の調査項目（平成22年度～令和元年度） （当日机上配布） ・ 青少健だより「花みずき」 ・ 9月8日開催の青少年問題協議会の会議録		
会議結果	○ 今期の研究テーマについて、コロナ禍の子どもの状況と、ITCの使い方について調査・研究することとした。 ○ 次回専門委員会までに、アンケート項目について事務局でたたき台を作成し、事前に委員に意見を求めたのち、次回を開催することとなった。 ○ 調査方法・項目等については、次回も引き続き検討することとした。		

鈴木児童青少年課長	<p>児童青少年課長の鈴木です。本日もよろしくお願いたします。</p> <p>本日はお忙しい中、青少年問題協議会専門委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の御欠席の御連絡をいただいているのは、佐藤委員、大内委員のほうから御欠席の御連絡をいただいております。</p> <p>倉持委員のほうは、まだ御連絡いただけていないんですけれども、遅れていらっしゃるかもしれませんが、定刻になりましたので、進めさせていただければなと思っております。</p> <p>初めに、事務局のほうから資料の確認をさせていただきます。</p> <p>お願いします。</p>
前田児童青少年係長	<p>事務局の前田です。おはようございます。</p> <p>事前に資料のほうを送らせていただけています。次第と資料が紙一枚で両面のもの、それと、ちょっと過去まで遡り切らなかったんですけれども、平成22年以降の青少年問題協議会で取ったアンケートの設問について、参考で資料をつけさせていただきます。</p> <p>本日、机上に配付しましたのは、青少年健全育成地区委員会が発行しております「花みずき」という冊子というか広報紙と、前回の9月8日開催の青少年問題協議会の会議録が、校正を終わりましたので、こちらは配付という形でお配りしております。</p> <p>本日欠席の方と本体会議のみの御出席の方には郵送をさせていただきますものになります。お持ち帰りください。</p> <p>事前に送付したのも含めまして、本日不足等があれば、予備がございしますが、大丈夫ですか。</p> <p>では、確認のほうはこちらで以上になります。</p>
鈴木児童青少年課長	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>本日は前回の続きで、調査、協議のテーマについてになりますので、ここから、浅野専門委員長のほう、よろしくお願いたします。</p>
浅野委員長	<p>皆様おはようございます。本日もよろしくお願いたします。</p> <p>前回の会議におきまして、皆様から御意見をいただいた中で、今回進めていくテーマとしては、コロナ禍ということは外せないのではないかと御意見が多くありました。前回のときには、コロナ禍は収束に向かいつつあったんですけれども、また今、新しいものが蔓延して、今後も予断を許さないというところは、皆様もよく御存じのとおりであります。</p>

前田 児童青  
少年係長

そこで、テーマについてなんですけれども、前回のお話の中で、様々な制限による、いろいろな機会や交流の減少による影響について、あるいは、ICT化が進む中での懸念、前回のアンケートとの比較で見えてくるものがあるのではないかとといったような御意見をいただきました。

最終的にはリーフレットにまとめていくことをイメージしながら、どのようにアンケートに盛り込んでいくか、問いたい内容と具体的な質問なども含めて、総合的に議論していくということになっておりました。

予定としましては、今日を含めて、あと2回程度で調査方法と調査内容を決定していき、本体会議に諮っていくということになっていたと思います。

それではまず、資料について、事務局から説明をいただいた後、具体的な議論を進めていきたいと考えております。

それでは、事務局からの説明をお願いいたします。

事務局の前田です。資料3を御覧ください。

この前、お話をいただきまして、皆様からいろいろな視点での御意見をいただいたところです。持ち帰りまして事務局のほうで、調査方法だったり、こういう感じのイメージかなというのをまとめたものが、こちらになります。

調査方法については、まず、子どもだけで、例えば、中学2年生と小学4年生と小学1年生は何を考えているのか、そういったところで差異を見るアンケートが取れるかな、もしくは、子どもとその保護者、親子に調査をかけることで、子どもはこう思っているけれども、親としてはこっちのほうの心配が大きいんだとか、そういったことの大人と子どもの比較、それから、参考でお配りさせていただいている過去の調査の項目と全く同じ問題であれば、経年での比較も可能かなという、アンケートでいくのであれば、この3つの方法が取れるのではないかとということです。

調査票につきましては、参考資料の一番後ろのページで、令和元年度に取りましたアンケートは、マークシート型で取らせていただいたんですけど、調査数にもよるんですが、これはどこにも委託を出したりしていないので、事務局が最終的には集計をする形になります。

なので、できればこういったマークシート型のほうでやっていただ

けるとありがたいかなと思っております。

令和元年度にやったものと同じマークシートを使えるということであれば、選択肢としては4つまでで、これが全部で25問、取れるよという形になっています。

ちなみに、令和元年度につきましては、平成22年から参考についていますが、それまでと違い、子どものみアンケートを実施しまして、小学4年生から中学3年生までの全校生徒に調査をしたので、例年より大規模な調査となっております。

逆に、その前の平成29年に取ったのが、「子どもの居場所」に関するアンケート、一枚前のほうになるんですが、こちらのときは、学校数を小学校2校、中学校2校に絞りまして、その中で、小5から小6、中1から中3の親と子、両方へアンケートを取ったという形になっております。

調査票については、またこういったものを活用できると、事務局としてはありがたいと思っております。

資料3にお戻りください。

資料3のイメージと書いてあるところで、イメージが1から3までございますが、前回いただいた御意見から、コロナ禍というところと、あとは、経験等々が減少していく中での影響、それと、ITC化というようなキーワードが出ておりましたので、その中から、それぞれ、構成としては、お配りしたリーフレットを確認していただくと分かるんですけど、表面は下半分と裏面の上下で、3テーマぐらいに分けてあると、啓発としてはやりやすいのかなと思っております。構成としては、コロナ禍で思ったことのテーマが1つ、対人関係の変化が1つ、ネットとの付き合い方の変化が1つというような、3テーマで分けたものがイメージ1となっております。

こちらの想定としては、仮にですが、保護者と子ども、それぞれに項目を取って、大人から見た心配事と子ども自身が感じていることの比較から見えたことについて検証するのはどうかというのが、事務局からの提案となっております。

下のロジックツリーのほうを御覧いただくと、コロナ禍の不安というところについても、コロナ禍での安心を得るためにやっていたこととコロナ禍で制限がかかったことに対して、漠然と感じている不安などといったところに分けられるかなと思ひまして、感染対策は両方に

なってくるかなと思うんですが、安心を得るために、これは続けたほうがいい感染対策、例えばマスクはずっとしていたほうがいいよね、だけど、制限として、もうそろそろ解除してもいいと思っている感染対策、例えば、制限が一番かかったものとしては、修学旅行だったりとかそういったものがあつたかと思います。

まだ、G o T o トラベルとかそういったものがどうなるかというところはあるんですが、やはり経験を与えるほうが、あまり制限をきつくしてもしょうがないだろうとか、そういったもので何を解除してほしいか、するのは構わないと思っているかというようところが取れたらいいのかなと。

「安心」のほうの「家庭」としては、金井委員とかのほうからもありましたけれども、家庭との関係性の変化ですね。テレワークが多くなったりとか、働き方が大人は変わりましたよね。それに伴って、家が安全に感じなくなる、安心に感じなくなる子どももいただろうし、逆に、家族との時間が増えて、安心感が増えた家庭もあつただろう。

そういったところで、今までの家族のルーチンで回していた関係とはちょっと変わってきたんじゃないかなというのが、家庭のところですね。

ネットコミュニティーにつきましては、様々な視点から前回、御意見をいただいたかと思います。インターネットの利用が増えたことによる不安、リテラシーの問題というのを、大貫委員のほうからもいただいておりますし、逆に、インターネット環境が整ったことで、不登校のお子さんと学級の子がつながった、例えばLINEのグループであったり、そういったものができた、いい面があつたよねというようなお話が後藤委員からもあつたかと思います。

そうしたものに焦点を当てていく。ただ、保護者が不安に思っていることと、やっぱりこの辺は子どもとの差異が出てくるのかなと思っております。

下の「制限」の「感染対策」は今、御説明したので、「機会喪失」のほうですね。こちらについても、なくて残念な機会として、例えば家庭であれば、今まで毎年、家族旅行に行っていたのに行けなくなったよとか、非日常的な活動といったもので、どういったものを残念だと思っているのか、どういうものを復活していきたいと希望しているのかというところが取れたらいいのかなと。

関係性の喪失につきましては、マスクをしたままでしか友達の顔を見ていないというような御意見もありましたけれども、あとは、縦割り学級の機会の喪失とかそういったお話もあったかと思うんですが、リーダー性を発揮する機会だったりとかそういったところで、縦というのは学年の差、横というのは同級生、斜めというのは、地域を含めた、今までだったら気軽に挨拶できていたのに、挨拶するのもはばかれる時期もあったかなと思ひまして、そういった関係性、挨拶を含めたところが喪失されていると感じているのか、もしくは、それはどういう影響があったかと思っているのか、そういった形でもいいのかなど思っております。

イメージ1のほうは、コロナ禍だけで今、組み立てているんですけど、実際の啓発を、リーフレットを作って配布する時期としては、来年じゃなく、再来年の6月になるんですね。そこまでコロナがこの状態で長引くか、ちょっと私のほうも、専門家でも何でもありませんし、読めないところはあるんですけども、仮に続いていたとしても、関係の喪失とかそういった部分については改善をされてほしいなというところもあり、あまりコロナコロナしていても、再来年6月に周知・啓発するには、時代に合っていないものになるリスクがあるかなというところは、担当としては思っているところです。

イメージ2「コロナ禍の不安」、こちらは先ほどのものとあまり変わらないんですけど、裏面で、コロナに特化したものも一応、作ってみました。

コロナ禍の不安を、まず、身体的なところ、体の影響として表れてくるところと心の不安として表れてくるところに分けております。

身体的、体のところで出てくるものとしては、やはりICT化というところで、IT機器の長時間利用に伴う、使い方がどうなのかというところと、それに伴った不調の自覚、目が悪くなったとか、姿勢が悪くなったとか、座っている時間が多くなったとか、もしくは、寝る時間が遅くなったとか、そういったことも聞けるかなと思っています。

もう一つは、運動・活動の制限というところで、体育自体は行っても、例えば、外で遊ぶ時間が減ったよとかそういった生活時間、活動時間というようなところでの比較でも構わないかなと思ひますし、あとは、体として出てくるとしたら視力だったりとか、様々な方向から考えられるかなと思っています。

精神的なところから見たものとしては、交流減少、先ほどのやつです。縦、横、斜めの関係のどれを交流回復していきたい、優先していきたいと考えているのか。あとは、今までは顔が全て見えて、口元も見えて、笑っているとか、怒っているとか、判断しやすかったかなと思うんですが、今は目しか見えていない状態で、困ったことがあるのかとか、そういったことは聞けるのかなと。

不登校についても御意見をいただいていたので、入れていこうかなと思ったんですけど、なかなか不登校についての問題、設問について、私のほうで思いつかず、取るターゲットを不登校ぎみの子だけに絞るとかであれば、それ用の設問になってくるかなと思うんですけど、学校に出てきている子どもにも聞くということになると、学校に来るのが嫌だな、だるいなと思ったことがありますかとか、そういう不定愁訴の関係の設問にどうしてもなってしまうのかなと。すみません、ここは事務局でちょっと考えつかなかったので、「？」が入っております。

イメージ3については、イメージ1のIT環境のほうだけに特化したような内容になっています。

コロナ禍には関わらずという形ですかね。コロナで加速はしたけれども、コロナに関わらず聞いてみるという形で、構成としては、IT充実による受け止め方を確認するとともに、ネットリテラシーが備わっているのか確認して、例えば児童ポルノとかそういった危険、青少年の健全な育成を阻害する、もしくは脅かしている問題のことを保護者等々に啓発していく内容でまとめる感じだと、こんな感じかなと。

下のロジックツリーですと、IT環境の変化には、いい面も悪い面もあるよと。

いい面のほうとしては、対面によらない関係が構築できたこと、それと、学習方法の多様化という形で、事務局案を出しております。

対面によらない関係の構築としては、新たな交流の有無、これは、インターネット上で、顔を見たことはないけど、ゲーム上でつながっているとか、そういうネットの友達ということもあるだろうし、後藤委員のおっしゃっていたような、不登校児でもLINEグループに入っていたり、そういった身近な地域にいるんだけど、今までつながりづらかった層とのつながり、あとは、ネット上の交流のいいところというの聞いてみてもいいかなと思っております。

学習方法の多様化については、IT活用でよかった点、あと、黒須

委員のほうから、IT活用で困ったこととかあったんじゃないか、急速にGIGAスクール構想が、本当は3年とかかけて進んでいくところを、コロナ禍でぎゅっと速く行ってしまったところで、戸惑いがなかったのかというところは確認してもいいのかなと思います。

悪い面のほうでも、対面によらない関係構築が入っておりますが、トラブルですね。やっぱり文字で伝えるのと言葉、口に出して伝えるのは、捉え方が違うと思うんですね。LINEいじめとかありますけれども、表現とか誤解に対するトラブルがあったのか、それに対応する対処方法の提示も必要かなと思っております。

それ以外に、今も、フィルタリングをかけていても、例えば課金の問題だったりといった、通常であれば契約ができる成人にしか影響してこない、消費者的な活動でのトラブル、そういったものも聞けるのかなと思っています。

悪い面の一つとして、情報格差ですとか環境格差の問題も御意見が出ていたかなと思います。IT環境が、学校では1人1台配られて、使えているけれども、家では実際どうなんだろう。Wi-Fiとかそういうものの契約によっては、何台まではつなげるけど、何台以上はつなげないよだったり、あまり使い過ぎると速度が落ちて使えないよだったり、Wi-Fi環境はあるんだけど、お父さんだけだよとかそういうことで、子ども自身が使える環境が家庭内にあるのかどうか、聞いてみるのもいいかなと。

機器との付き合い方の自覚としては、何時まで使うとかそういうルールを、大人と子どもで決めていて、守れていますかとか、破ったときの決まりもつくっていますかとか、そういう方向でもいいのかなと考えながら作ったのが、資料3になっております。

分かりづらいところがあったら、もう一度、掘り下げて御説明しますが、一応、説明のほうは以上になります。

ありがとうございました。

イメージ1から3までお示しいただいたんですけど、まず、御説明いただいた中で、ちょっと分かりにくかったとか、もう少し補足の説明をいただきたいというものがあれば、最初に出していただきたいんですけども、いかがでしょうか。

それでは、話をしながら、またその中で、不明な点等も併せて出していただければと思いますけれども、まず、アンケートに当たって、

浅野委員長

前田 児童青 少年係長	<p>テーマを決めていくということなのですが、これからそれを絞っていききたいんですけども、ただ、先ほど事務局の説明がありましたとおり、リーフレットの完成が、来年ではなくて再来年、令和5年6月ということをお考えますと、1年半後に社会状況がどういうふうになっているかというのは何とも言えないところがあります。</p> <p>ですから、コロナ禍が続いていくのか、あるいは、1年半後にはそれなりに改善されているのかといったところは、全く分からないというところでもありますので、コロナ禍であるということ意識しつつも、あまりそれに特化しないで、子どもたち、それから保護者の方に、率直なアンケートにお答えいただくというところに絞っていければと思いますが、どんなところからいきましょうか。どなたか口火を切っていただけますとありがたいんですが、いかがでしょうか。</p>
浅野委員長 小山委員	<p>事務局の案にとらわれず、これはイメージしやすいようにと思って出ただけですので、いやいや、これじゃなくて、参考でお配りしている、去年まで取ったアンケートと同じ比較をやってみたほうがいいんじゃないとか、テーマも、3つ選べるよとお話ししたんですけど、それが必ずしもリンクしなければいけないというものでもないかなと思っていますので、もしテーマを分けるんだったら、5項目ずつぐらいになりますが、家庭のことを聞いてみよう、生活のことを聞いてみよう、コロナのことを聞いてみようとか、その辺りは自由に議論していただいて、詰めていただければと思います。</p>
浅野委員長 小山委員	<p>どうぞ。</p> <p>小山ですけども、よく分からない点があるので、それを含めて、ちょっとお聞きしたいんですけども、コロナが収束するにしろ、ししないにしろ、IT化というのはかなり進んでいくと思うんですよ。例えば、リテラシーの問題で、学校が今、例えば、パソコンでしたか、1台、支給されている。</p>
浅野委員長 小山委員	<p>はい。Chromebookを使っています。</p> <p>やられているわけですね。そういう方向で、学校が平準的にそれをやっているわけですね、各学校とも。</p> <p>家庭に戻ると、それはちょっと分かりませんよね。先ほどのように、例えばリテラシー、能力、操作等について、子どもがかなり熟練というか、得意な部分でやっている子と、それにはなかなか、操作は不得意な子もいるかもしれないし、それからまた、そういった面でのリテ</p>

ラシーの問題とか、あるいは環境の問題で、先ほどのお話のように、家庭がいろいろ制限するとか、あるいは生活、経済的な側面から、なかなかそういうものを持たせられないとか、いろいろな面がありますね。そこのリテラシーというか能力というのは、幾つかの側面から考えなくてはいけないのかなと。それは収束後も多分、急激にIT化が進んでいますから、それは避けて通れないだろうと。

それから一方で、私が知り合いなんかに聞いたんですけれども、ある会社にお勤めの方は、これまでと違って、ほとんど家で仕事をしていい。全部、パソコンを通して仕事をしていいというような状況になってきた。会社に出勤するのは、本当に僅かな回数になってきている。そうすると今度、御主人が家にいるわけですね。

家にいて、また別の例なんですけれども、会議をしていて、大事な会議だから、奥さんと子どもは外に出ていってくれと、いろいろ音とか雑音がしてはいけないので。そうすると奥さんが、例えば、かなりの豪雨の中で出ていったというケースがあったという話を聞いたことがあるんですね。そうすると、コロナが終わっても、家で仕事をするような、あるいは大事な会議をそこですることによって、家族の中での関係性が随分変わってくるといったようなことを聞いたんですね、最近。だから、その局面からいくと、IT化のもたらすもの、そういうものについて、どう捉えていくのかといったことは必要なのかなとちょっと感じたんですね。

以上です。

浅野委員長

ありがとうございます。大変大切なところをついていただいたなと思いますね。実際にコロナ禍が収まったとしても、元の生活様式に戻るのか、あるいは、コロナ禍で進んだものが継続されていくのかというところは、学校現場でも共通の話題といたしますか、課題になっていますのでね。

先日も、小・中学校合わせて校長会をやっていますけど、月1回。そこで大熊教育長が、来年度の教育課程、つまり学校でどういうふうな活動をしていくかというのは、今ちょうど小学校も、中学校も組んでいる時期なんですけれども、コロナ禍の中で、制限があったり見直しをしたりしたものを、例えば元どおりの社会状況になったとしても、元に戻すのか、必ずしも元に戻さなくて、今、やってみて、かえってよかったなというところは、継続していいのではないかと

話になりました。

具体例を1つ挙げますと、運動会なんですね。小学校の場合には運動会、中学校は体育祭ですか。これまでは、お弁当を挟んで、一日やっていたんですね。ただ、小学校の場合ですと、全校、やり方は統一したんですが、この2年間は午前中だけで終わっています。種目を減らして、それぞれの学年が、ダンスであったり、民舞であったり、そういったものの表現種目だけを発表して、保護者も入れ替わりで終わり。

今年度については、徒競走を入れた学校もありますので、徒競走と表現種目だけ、それを学年で順番に回して行って、保護者も入れ替わりでやる。それで午前中には終わるということでやったんですね。

本校も、終わった後に、保護者からたくさんのアンケートをいただきまして、このやり方はいいというのがかなりありました。ただ、中には、ほかの学年のものを見たいから、また元に戻してほしいという声もありました。

難しい判断ですけれども、少なくとも、お弁当を挟んで一日やるという、御家庭の負担も考えれば、午前中だけでいいんじゃないかというのは、実は小学校の校長会では今、ほとんどそういった意見に向かっていますね。

中学校はいかがですか。

中学校でも、午前中だけで終わらせている学校もあるんですけども、足並みが全部そろっているわけではありません。従来どおり午後まで実施した学校も実際にありますし。

その辺は今後、また協議をしていくことになるんですが、そういった見直しをしていくということも1つあります。

今、小山委員がおっしゃっていただいた中で、IT化は確実にこれからも進んでいくだろうと。全くそのとおりで、コロナ禍であろうとなかろうと、小金井市もGIGAスクール構想というのは、その前の段階から打ち出していまして、今、小・中学校の全児童・生徒に1人1台、Chromebookという機器が貸与されていて、それを当たり前のように日常的に使って授業をやっています。

小・中学校の授業を御覧になりますと、今、小学校1年生でも、自分でログインして、ぼんぼん文字を打ち込んでいるんですね。はっきり言って私なんかより、打つのが相当速い子どもがいっぱいます。

金井委員

浅野委員長

こういったときに、今、リテラシーのお話がありました。小金井市もChromebookを、状況によっては家庭に持ち帰らせてもいいというふうになっているんですが、これについては、小学校の中でも意見が分かれまして、持ち帰らせてやっている学校もあれば、本校も含めて、まだ慎重であるという学校もあります。

その最大の懸念は、今、おっしゃっていただいたとおり、リテラシーの問題なんですね。要するに、家へ帰って、全然学習に関係のないことを勝手に使ってしまう怖さというのがどうしてもあります。学校だったらそういうことはないですから。

ネットいじめのようなことも幾つか報道されていますね。町田市でも、それが原因で自殺をしてしまったという問題がありましたけれども、ということで、非常にそこは難しい問題がありますし、あと、家庭環境というお話もありました。これも、Wi-Fi環境が整っていない御家庭もあります。

昨年度、学校がお休み、休校期間で、要するに、臨時休校にして、家庭学習を進めていた時期がありましたよね。そのときも、家庭で学校からの配信ができるかどうかを調べたところ、やはり、全くWi-Fi環境がないという家庭は複数あります。

その場合には、市から貸与されたものを貸していたんですけれども、それも時期になったら引き揚げてしまったんですね。そうすると、家庭に持っていったときに、みんなが平等に使えるかどうかというところの危惧もあります。

さらに、在宅ワークのお話もありましたけれども、これも増えていることは間違いありませんし、今後も継続されるだろうということも見込まれますね。そうすると、それによる、今おっしゃっていたように、家族のストレスということも大きな課題になってくる。

ですから、今おっしゃっていただいたことは、どれも設問に加えられますよね。喫緊の課題であり、将来的にも続くであろうと見込まれるものですので、全くどれもそのとおりだなと思います。

では、今の小山委員の御意見を受けまして、ほかの方はいかがでしょうか。

八木委員。

八木です。

今の御意見で、確かにリテラシーとかICT環境のことに関しては、

八木委員

これから先、必ず進んでいくでしょうし、今回、コロナがなくても、子どもたちのネット状況とかそういうことが話題になる、そのとき、それぞれにリテラシーと、親のほうはついていけないよねというようなことは伺ってきていますが、ここはやはり、再来年の6月、このリーフレットが出るときにはどうなっているか分からないということはありませんけれども、コロナという特殊な状況下において、保護者、子どもたちにとっての不安感とか、今おっしゃられたような、それはよかったねという部分はあると思うんですけれども、キーワードとして、やっぱりコロナというものは外せないかなというところは、根本的にはあります。

つまり、リテラシーとか、ICTとか、そういうことを一つのリーフレットの項目にしたとしても、その背景には必ずコロナというものを入れ込んでいかなければいけないというのが今の状況かなと思っています。

仮に収束したとしても、あのとき起こったあのこととか、子どもたちにどう影響しているのか、家庭ではあのときどう心配して、これから先、子どもたちにどういうことが起こっていくかということも心配なんだよということを、それは明らかにしていかななくてはいけない一つの事例、事項なのではないかなと感じています。

それで最終的に、リーフレットの一番最初のこのところの、これを私たちはどう提言をしていくようなものを作っていくかというのが、一番最後の目的になるかなと思うんですけれども、仮に、問題を浮き彫りにして、保護者はどういうことを心配しているか、子どもたちはどういうことを考えているか、そしてその先に、どういう提言が青少年問題協議会でできるのか、そのこのところの、最終的にはどう提言するかというところが今、ちょっと私的には見えていないんですけれども、不安があるということを浮き彫りにし、そして、いいところもあるということを見ていき、そして、それをどうつなげていくか、最終的なところをもう少し詰めたなというふうに感じています。

保護者は、例えば1年生、2年生、何の大きな行事やイベントも経験していない、この子たちの小学校の生活はどうなってしまいうndらう。給食は黙食で誰ともしゃべらない。前を向いて食べる。給食は楽しく食べましょうという食育教育だったのが、今は黙って食べましょうになってしまった。中学になると、楽しみにしていた修学旅行とか

そういうことを一切経験せずに高校へ上がっていく。この子たちは大丈夫なんだろうかという心配がある。

子どもたちにとってみても、小学校の1、2年生は、ないのが普通、お友達の顔をマスク越しに見るのが普通というふうに育ってきた子どもたちが、もし、それは違うんだ、これはイレギュラーなバージョンなんだよというようなことを、どう感じているのかということは、やっぱり心配かなというふうに感じているということは、明らかにしていかななくてはいけないかなと感じています。

なので、イメージ1のように両方、コロナと不安と、それに伴うようなICT関係のよかったところ、また不安とか、そのようなことでアンケートを取り、最終的にどう提言していくかということで意識していったらいいかなと私は考えました。

以上です。

浅野委員長

ありがとうございます。前回のアンケートを取ったときには、まだコロナは始まっていなかったんですね。それで、アンケートを取ったんですが、その集計をして、分析をして、リーフレットに移行する段階で、コロナが広がってきて、それも併せてリーフレットに反映していったというところはあるんですね。

子どもの声を聞いていますかというタイトル、このタイトルは最後に決まったんじゃないですか。

前田児童青少年係長

そうですね。

浅野委員長

つまり、最初にタイトルを決めて作っていったのではなくて、アンケートを取っている中で、子どもの声をもっと聞いてほしいというような結論に向かって行って、最初は、子どもの声を聞きましょうみたいな案が出たんですね。でも、そうすると、それは押しつけになっちゃうから、聞きましょうではなくて、聞いていますかといった、暗に問いかけるようなタイトルにしようということで決まった経緯がありました。

ですから、タイトルについては、今後の社会状況も見ながら、最終的には固めていく必要があると思うんですが、ただ、今、八木委員がおっしゃったように、コロナが収束していようと、していなかりょうと、その間、どうだったかという声を聞くことは、必要なことかもしれません。ありがとうございます。

後藤委員	<p>そのほかの方、いかがでしょうか。お願いします。</p> <p>後藤です。</p> <p>今、小山さんと八木さんのお話を伺っていて、それも受けてなんですけれども、私、ふだんは渋谷区の企業の人事担当をやっておりまして、おっしゃるように、弊社もほぼ100%、リモートワークになっておりまして、用事があるときだけ会社へ来るというのも、オフィスもそれ用に改装して、2,000万円ぐらいかかったんですけれども、頑張っただけでやりましたけれども、そういう世の中になっていく変化は、この後、戻らないだろうなど。</p> <p>ただ、出入りの業者さんとかスポンサーさんと話をしていると、電車に乗っていても思いますけど、帰ってきている。出社をしている人たちも増えていて、リモートワークで仕事をしている人と現場に出ていく人と、二極化していくような印象を受けております。</p> <p>ただ、やっぱり仕事を進めていく上で、ITを使うというのは当たり前前のことで、実際に私、人事をやっているのも、他社さんの案件とかも見るんですけれども、採用するときの最低条件がどんどん上がってきて、前はなかったんですけど、エクセルがこれぐらいできるとかウィンドウズがこれぐらい操作できるというのは当たり前前にやっていますし、私も採用するとき、抜き打ちで、ちょっとこれを入力してと言って、指元を見て、駄目とかやっていますので、やっぱり生産性に関わることなので、意思決定とかもそれで遅くなるというのは、中国とかアメリカ、シンガポールとかと競争していくとなると、本当にスマートフォンで、中国やアメリカの人なんか意思決定して、日本なんて、持って帰って、会議して、社長に聞いて、稟議で意思決定しますなんて言っていると、中国やアメリカの会社なんか、その場合で意思決定してくるというところで、資源の奪い合いに負けてしまったりということで、非常に国力が低下していくので、子どもたちが、いつから始めるのかという問題はあるんですけれども、そういう社会になっていくのは避けられないことなので、それを何とか適切に載せていくというのは必要なことだなというのが、伺っていて考えたことなので、それは何でしょうね、本当にリテラシーという言葉なのか、適切に身につけていくということなのか、後戻りはないと思いますので、そこをちゃんと見守っていくということは必要かなと考えております。</p>
------	---

もう1点が、八木さんがおっしゃったことにつながっていくんですけども、やっぱりコロナというのは外せないなと私も思っておりまして、非常に社会的にインパクトがありましたし、ちょっと思い出したのが、私がお付き合いしている若い人たちの中で、東日本大震災の2011年のときに高校生ぐらいだった若者たちが、東京の大学を出て仕事をしていただけですけども、10年を機に、20代後半になって、社会的なスキルがついて、やっぱりあのとき、地元の気仙沼とか仙台に帰っていく若者が結構いて、地元で起業したりとかという若者がいて、そういう人たちに話を聞くと、震災があったときに、自分たちは高校生ぐらいで、守られる側だったんですけども、大人たちがすごく守ってくれたと。

こういう危機があったときに、その大人たちの姿を見て、自分もそっち側に回りたいというふうなことを10年たって思って、自分が実力がついたので、戻って、守る側に行きたいという思いを持ったという話を聞いたんです。

なので、コロナ禍で、今の子どもたち、小学生、中学生、高校生が私たち大人をどう見ているかというのはちょっと興味がありまして、ひたすら右往左往してしまっているのか、大人がこうした意思決定というのを子どもたちがどう見ているのか。

例えば、学校行事が中止になったということに関しても、しょうがない、納得ということなのか、いや、実は隣の武蔵野市は修学旅行に行っているよねとか、そういうことを知っていたりするんで、そういうのを私たちは子どもたちに、いつか、私たちの背中を見て育っていくものなので、そういうちゃんとした大人、社会をどういうふうに見ているのかなと。

一種の災害だと思うので、どういう設問にするか分からないんですけども、社会がどういうふう映っているのかというのは非常に興味がありますということと、あと、コロナ禍で、エッセンシャルワーカー、医療従事者みたいな人たちが、社会に貢献していく仕事をしている人たちがすごくクローズアップされたのは、それはよいことだと思っていて、子どもたちがそういうニュースとかを見て、現場で人のために仕事をする人たちというのを多分、目にしていると思うので、それは、さっき言った気仙沼の若者たちのように、いつか影響すると思うんですね。

浅野委員長	<p>なので、彼らが今、どういうふうに見て、そういうものから未来を彼らがつくっていくために何か総括的な、コロナは多分、おっしゃるように、2年後にはある程度、収まっていると思うんですけども、何らかの総括みたいなものはあったほうがいいのかなどというふうに、本当にアイデアレベルなので、ちょっと考えたところです。</p> <p>ありがとうございました。非常に面白い視点だと思いますね。</p> <p>今、お話しいただいた中で、聞きながらぱっと思い浮かんだんですけど、例えば、地元に戻っていくというお話ですけども、私はNHKの朝ドラが大好きで、ずっと見ているんですけども、DVDに撮って、家に帰って毎晩見ているんですけども、前回の朝ドラは、「おかえりモネ」だったんですね。</p> <p>あれはまさに、モネちゃんが気象予報士になって、地元に戻って、震災、要するに災害を防ぐことにもつながる気象予報士をという、非常に社会性の強い朝ドラだった。視聴率は悪かったんですけど、私はすごい感動しながら見ていまして、今のお話はぴったり重なったんですね。</p> <p>それから、医療従事者についても、今年の夏の甲子園の始球式をやったバッテリーは、昨年度、要するに夏の甲子園がなかったので、出られなかった。その2人は卒業して、2人とも医療系の大学へ進んだんですね。つまり、自分たちは甲子園へ出られなかったけれども、そこで格闘している医療従事者を見て、自分の進路を変えたと言って、バッテリーが2人とも医学部に進学というニュースが流れていました。</p> <p>まさに今、後藤さんがおっしゃったとおりの状況が、若者たちには生まれてきていますね。ですから、子どもたちがそういった大人の行動、意思決定をどう見ているかというのは、すごく面白いし、いいなと思いました。そんなのも盛り込めればいいなと思いました。</p> <p>そのほかの方、いかがでしょうか。どうぞ。</p>
黒須委員	<p>黒須です。</p> <p>私は、コロナで、これを発行するときはほとんど収まっているかもしれないしという思いがあったんですけど、お話を聞いていて、やっぱりGIGAスクール構想が一気に進む、こういう方向になったのも、コロナの影響があったわけだし、やっぱりコロナも必要だなというふうに、お話を聞いて思いました。</p>

<p>浅野委員長</p>	<p>私は一番、やっぱりインターネットが家庭にどんどん、学校がG I G Aスクール構想でどんどん学習方法が変わってみたいな中で、それを家庭がどう受け止めて、どういう変化が起こっているみたいなの、親はどういう変化があって、子どもはどういう変化があってみたいなの、そういう現実を、現場はこうなっているというのを受け止めた上で、これからはこういうことが必要なのではないかみたいな提言になっていったらいいなと思いました。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>ありがとうございました。ここまでの御意見をまとめたような感じがいたします。</p> <p>鈴木委員は何かありますでしょうか。</p> <p>私も、コロナ禍の話というのはやっぱり必要だろうと思いますし、また、コロナの中で、子どもたちはいろいろな、家庭環境も変わるし、ストレスもかなりあると思うので、その辺の実態を調査して浮き彫りにして、あるいはまた、大人たちがどういうふうを考えてというようなことも盛り込んでいって、結局、IT化というのは避けて通れない問題ですので、IT環境の変化とネットリテラシーというのをクローズアップしていったらいいのかなと思っております。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございました。かなり方向性が固まってきた感じがいたしますけど、金井委員はいかがですか。</p>
<p>金井副委員長</p>	<p>学校の中を見ていくと、1年半以上前に、例の全国一斉休校というのがあったんですが、その影響というのが今もまだ子どもたちのほうには残っているというふうに感じている教員がほとんどなんですね。</p> <p>ですから、そういった休校によって残された子供たちへの影響を考えてみても、やはり学校が、再来年になるとはいえ、コロナ禍の影響というものについて、改めて検証しておく、もう一度見直しておくというようなところは必要だと思います。</p> <p>ですので、今まで出たような御意見は非常に貴重だと思いますので、そういった方向でやっていければいいかなと思います。</p>
<p>浅野委員長</p>	<p>ありがとうございます。実際に、市内の小・中学校の生活指導担当の先生方が集まる生活指導主任会、前回もお話ししましたがけれども、明らかに各学校で、不登校なり不登校傾向のお子さんが増えているんですね。これはコロナ禍が影響しているのかどうかというところまでは、つかみ切れていませんけれども、ただ、少なからず子どもたちの心に、あるいは生活に、それから保護者との関係で、なかなか来られ</p>

	<p>ないという子もいるんですよ。難しいです。親と離れられないとか、逆に、保護者の方も生活が不規則になってしまったので、それに合わせて、朝起きられないとか、そういった事例もあるんですよ。</p> <p>一言で不登校と言っても、背景にはいろいろなものがあるなというのは、特に今年度、感じていますので、昨年度より明らかに増えていきますし、対応もそれだけ複雑になってきています。多分、ほかの学校も同じような状況ではないかと思います。</p> <p>大体、方向性については出されましたけど、まだ補足で何か御意見等があればお伺いして、事務局に戻したいと思うんですが。ごめんなさい、大貫委員ですね、失礼いたしました。</p> <p>私も皆様がおっしゃっているように、コロナ禍というのは外せない。やっぱりそれはある程度、結果に影響を及ぼすものと思っております。あと、ネットリテラシーという、もう一つの柱としてアンケートを取ることは必要かと思っております。</p> <p>ネット環境に関しては、数年前からいろいろ聞いているところもありますので、何もなく、コロナがなかった頃のネットに関することも参考に考えて、コロナを踏まえた上での設問を考え、そして数年後にまた、コロナが終わって、G I G Aスクール構想がもっと広がったとか完成した頃に同じような設問を取ることで、子どもたちの考えといったものも比較はできるのではないかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
大貫委員	<p>私も皆様がおっしゃっているように、コロナ禍というものは外せない。やっぱりそれはある程度、結果に影響を及ぼすものと思っております。あと、ネットリテラシーという、もう一つの柱としてアンケートを取ることは必要かと思っております。</p> <p>ネット環境に関しては、数年前からいろいろ聞いているところもありますので、何もなく、コロナがなかった頃のネットに関することも参考に考えて、コロナを踏まえた上での設問を考え、そして数年後にまた、コロナが終わって、G I G Aスクール構想がもっと広がったとか完成した頃に同じような設問を取ることで、子どもたちの考えといったものも比較はできるのではないかなと思いました。</p> <p>以上です。</p>
浅野委員長	<p>ありがとうございます。先ほど後藤委員が、人事に関わるところでI T能力を見ているとおっしゃいましたが、小学生からで今、本当にすごいですね。</p> <p>やっぱり小さいときからやると、今、意見は手を挙げて言う、グループで話し合うということ以外に、要するに、Chromebookなんか打ち込む、ジャムボードというんですけれども、意見をばんばん打ち込んで、それをお互いに見て、またそれに自分の意見を打ち込むという、I C T機器を使った意見交換なんて当たり前のようにやっていますので、ばんばん打ち込んで、びっくりしちゃいます、私なんかは。</p> <p>そこで色を変えて、相手のを見て、また自分が意見を加えていくというのは当たり前になっていますので、そういう子どもたちは、大人になったら当然、社会の中でそういった能力というのはかなり活用されるのではないかなと思いますね。</p>

前田児童青少年係長	<p>様々御意見をいただきましたけれども、事務局としては大体、今の出されたようなところで、何とかまとまっていきそうですか。どうでしょうか。</p> <p>事務局です。いろいろな御意見ありがとうございます。</p> <p>皆さんの関心事が大体まとまってきたかなと思いますので、具体的に、これをアンケートしていくときの方向性についても、ちょっとお伺いしたいと思っています。</p>
	<p>2点ありまして、コロナ禍というところで、今、令和2年3月に一斉休校がありました。今が令和3年です。アンケートを取るのが令和4年、来年度になります。</p> <p>一応、一番影響を受けただろうが、中1、中2、中3に来年なる子、もしくはここが小学校でもいいですけど、というところかなと思うんですが、この一番影響を受けた層に対するアンケートとしてまとめていくのがいいのか、ここじゃなくて、ほかの生活が、分かっていた層というか、例えば小3、小4で、来年、小5になる子だと、小2とかの今までの普通だった学校生活を知っていて、コロナを受けた子に話を聞くのがいいのか、その辺りについて、設問の方向性がちょっと変わってくると思っているので、御意見を集約したいというのが1点。</p> <p>すみません、すごく分かりづらい図だと思いますが、年齢経過についてかき出します。</p>
浅野委員長	<p>コロナの休校があったのが、令和2年3月。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。3月はほぼ丸々1か月。</p> <p>4月もですかね。</p>
浅野委員長	<p>4月はずっと、5月の半ばから再開ですね。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。令和2年3月から5月まで、コロナが日本に入ってきて、一斉休校しますよ、全国でなりました。</p>
	<p>そのときに何年生だった子にアンケートを取るかで、すごく影響を受けて、それが日常と感じている子どもと、その前に学校生活があったから、それが本来じゃないというか、コロナがイレギュラーだと思っている子の2パターンが、子ども世代にはあるのかなと思っています。</p>
	<p>皆さんの考えていらっしゃる、確認したいコロナ禍というのが、こここちらで出てくるもの、聞くことがちょっとずつ変わってくる。</p>

分かりやすく聞くための設問の仕方も変わってくるかなと思うんですけども、イメージとして、どちらの層にスポットを当てたいのかというところを、御意見をいただきたいなというのが今の趣旨です。

なので、具体的に何年生ぐらいのところに聞きたいよを今日、出してもらえると大変ありがたい。

それと、大貫委員からありました経年比較について、参考のほうをちょっと御覧いただきたいんですけど、インターネットの関係での質問は、「家庭の教育力」に関するアンケートというものと「子どもの居場所」に関するアンケートというところで、一度聞いたことがございます。

経年比較をするのであれば、この設問と全く同じものを使っていかないと、ニュアンスが変わってきてしまうんだらうと思うんですが、経年比較をしたいのであれば、どの設問は入れてほしいとか、そういったものの御意見をいただきたいかなと思っております。

取り急ぎ、その2点についてお伺いできればと思うんですが、委員長、いかがですか。

浅野委員長

分かりました。1点目は、アンケート対象学年ですね。前は、4年生以上の小学生。

前田児童青少年係長

そうですね。補足になります。今回、子どもだけの設問ではなくて、保護者からも聞きたいということなので、資料3の調査方法のところでは、保護者と子どもの比較ができるものとして取っていききたいなというイメージで、現段階ではおります。そこは大丈夫ですかね。

保護者と、前は、子どもの権利に関する条例を制定してから、小金井市は10年経過したというところの記念年でもあったので、かなり大規模調査で、総件数4,500件ぐらいの調査を行ったんですが、例年であれば1,000ぐらいの帳票数という形で今までやっておりまして、大体、事務局のキャパがこのぐらいです。

また、アンケート結果としては半数の500でも十分なエビデンスになると思います。

なので、保護者を入れるとなると、子どもの数500ぐらいまでで収めていきたいんですね。35人学級で言うと14クラスぐらいになりますね。

14ではちょっと多いかな。中学校などクラスの人数が多い学校があるので、12クラス分ぐらいを何の学年で取りたいかというような

浅野委員長	<p>イメージで考えていただければなと思っています。</p> <p>昨年、令和2年のを書いていただいているんですが、学校が休校になったんですよね。</p> <p>それから、一昨年度、令和元年度の6年生は、3月に入って、いきなり休校になってしまって、卒業式の前、1日だけ登校して、にわか練習をして卒業式に臨んだという、とんでもない状況が令和元年度の卒業生、小学校の卒業生、中学校も同じですね。ですから、その子どもたちが令和2年度の中1ですから、来年度、アンケートを取るとすると、令和3年度は中2になっているということです。令和2年……。</p>
前田児童青少年係長	<p>今がここなので、中3に取る設問になっていく。</p>
浅野委員長	<p>今が令和3年度だから、令和4年度に取るということは、中3になっているということですね。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。</p>
浅野委員長	<p>ただ、そのときに中2、中1の子たちというのは、今のコロナ禍で過ごしてきた子どもたちであり、中2の子たちというのは、5年生のときに鶴原移動教室には行っているけれども、6年生の清里林間学校は行っていないということですね。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。</p>
浅野委員長	<p>その次の代は、要するに今の6年生ですけれども、今の6年生は小学校の間に一度も移動教室を経験しなかったという、非常に残念な学年になってきたんですね。その子どもたちが、令和4年度には中1ということになりますね。</p> <p>いかがでしょうか。どうぞ。</p>
黒須委員	<p>黒須です。</p> <p>過去に、アンケートを取るのに、低学年では難しいというのがあったと思うので、それで4年生からになったのではないかなと思うので、アンケートを、小学生は同じようにするんだとしたら、やっぱり4年生からにして、コロナの対象の学年、3年生というのは外れちゃうけれども、それはしょうがないのかなと思うんですけど。</p> <p>あと、なるべく多く取ってほしいと思っているんですけど、アンケートを書いた子というのは、親もそうだと思うんですけど、答えが冊</p>

前田 児童青  
少年係長

子になって戻ってきたときに、見方が違うと思うんですね。

誰かが書いたアンケートの結果を見るのと自分が書いたことが結果として戻ってくるのと、全然見方が違うので、それを本当に、俺が書いたことがこんなになっているみたいなの、ほかの人もこういうふうになっているのかみたいなの、受け止め方が全然違うと思うので、なるべく多くの方にアンケートをできるといいなと思うんですけど、いろいろな事情があって限界があるなというのを感じますので、それはしようがないなと思います。

でも、できれば、なるべく多くの人にアンケートを書いてもらうことが、この結果を読む体制が変わってくると思うので、そういうふうに来たらいいなと思います。

事務局です。

今の御意見でいただきました、自分で答えたアンケートに対する啓発についてです。

今のお話を伺いますと、例えば、中学3年生のときにアンケートを取ると、高校生になっちゃうんです。今、市内の高校であれば配付が可能なんですけど、市外の高校に行ってしまうと、その子の手元に届けるすべがないので、今のを踏まえると、逆に、中3は除外する形になるのか。一番影響を受けた部分になるんですけども、中3は除外をしていくところになってくるのかなと思います。

この辺は、中学3年生までだったら、市内にいる子は市内の学校に行かれる子が多いかなと思いますので、配付はできるかなと思います。ただ、今までの啓発については、子どもに対する啓発というよりは、そもそも青少年問題協議会では、提言とか調査・研究した内容について報告書をまとめて、それを関係機関に配ったりというところでとどめていたところ、それでは本当に啓発したいところには届かないだろうというところで、一番啓発を届けたいのはどこなんだ、やっぱり家庭の親御さん、保護者だよなというところで、保護者に宛てた啓発として、リーフレット型がやっぱり読みやすいんじゃないかというところで、この形に今、なっているところがあります。

なので、子どもに対して啓発をするということではなくて、あくまで保護者の人に向けた啓発でまとめていこうかなというのが現時点での考えなので、そうすると、保護者の方が、自分が答えたからといって興味が出てくれるのかはちょっと、子どもよりはいろいろなアンケ

後藤委員	<p>ートが来ると思うので、1年たってしまうと、残念ながら忘れてしまうのかなというところは、個人的には感じるところでありますね。</p> <p>今のサンプル数の話ですけれども、これは紙じゃなくてネットでやっては駄目なんですかね。Googleフォームで作れば、子どもたちは1人1台持っているので、URLを投げて、回収率はもしかしたらちょっと下がるかもしれないんですけれども、そうすると、フォームなのでエクセルで落ちてきますし、集計もそんなに、いきなり数表が落ちてくるので、すぐそのままピボットでクロス集計をかけたりできるので。というのも、令和4年にやるんだったら今から練習していただければ、そんなに難しくないのかなと。</p> <p>私、実は会社がインターネット調査をやっている会社なので、紙でやらなくてもいいのではないかなとちょっと思っています。御検討ください。</p>
前田児童青少年係長	<p>御意見ありがとうございます。私も個人的には、インターネットで、Googleフォームだったり何だりというウェブアンケートを取ったほうが、帳票は楽だなというのはございます。</p> <p>ただ、市役所職員も、全員同じスキルを持っているわけではないので、今は紙で、取りあえずはまとめていこうかなと思っています。</p> <p>一応、ウェブアンケートにつきましては、今年度、子どもオンブズパーソンという制度を設置するために、中・高生にもアンケートを取ろうと思ひまして、Googleフォームを利用して行った実績はございますので、市役所だからできないとかそういうことではないんですけれども、あとは、それを学校にどのぐらいお願いできるかとか、あと、保護者の方への周知方法はどうしても紙になっていくのかなとか検討、調整すべきことがあります。</p>
後藤委員	<p>できるところだけでもやるというのもありますし。</p>
前田児童青少年係長	<p>そうですね。ありがとうございます。</p>
後藤委員	<p>続けてなんですけど、学年の話なんですけれども、保護者の立場から見ると、一番インパクトを受けたのは多分、今の小6の子たちかなと思っています。</p>
前田児童青少年係長	<p>今の小6、はい。</p>
後藤委員	<p>私は娘が今、中1で、その1個下の世代なんですけれども、その1</p>

つ上の代が、まさに卒業式が飛びそうになって、一斉休校だった世代で、私の娘の中1の代は、前の代が本当に全部なくなってしまったのを見ていたので、私たちも多分、運動会をやれないし、卒業式もできたらいいねぐらいだったので、いろいろ学校が力を尽くしてくださって、やってくださったので、本当は、できてよかったなんですけれども、その1つ下の今の小6の代の子たちは、さすがに自分たちの代には収まっていて、5年生の鶴原は行けなくても、6年の林間学校は行けるだろうとか、卒業式はそこそこできているんじゃないかという、ちょっとそういう予測を、甘い予想というか、そういう期待をして、保護者も子どもたちもいたので、それがこれほど長引いていて、予想していたことがどんどん潰されていった、今の小6が一番インパクトがあるかなと感じているので、そこの代の子たちを取れると、アンケートを取るときに中1の子たちですね。になるといいかなと思っています。

また、本当はそういう意味で言うと、今の中2、中3の子たちが、高校入試の情報収集とかが、いつも、先輩たちのようにできないという中で、すごく人生の最初の選択をするところで、一番インパクトがあったので、本当は令和4年に中3とかの子がいいのかなと思ったけど、高1か、この子たちに取りたいなと思うんですけれども、なので、今、中3の子たちですね。

どういうふうに進路選択をコロナ禍でやったのかというのが、一番苦労していると思うので、やりたいんですけど、ちょっとそういうところはアンケートのリーフレットの配付先にならないので、対象にならないんですけど、そういう意味で言うと、今の小6のところが一番、私は、保護者も影響があったし、子どもたちにも影響はあったかなというのは感じています。

八木委員、どうぞ。

私も今の後藤委員と同じで、今の6年生、令和3年度に6年生の子たちはまさに、これから先どうなるんだろうという不安の中で、何とかかなと思ったらそうでもないというようなところで、どういうふうを考えているのかというアンケートを、保護者にも取ってみたいかなと思っています。

それと、おっしゃったように、どっぷりとコロナの中でずっと過ごしてきた、令和4年度の中3生。

浅野委員長

八木委員

<p>前田児童青 少年係長 八木委員</p>	<p>令和4年度で、はい。</p> <p>これから先、中学を卒業して社会に出ていく、自分たちはいろいろなことが欠落しているんじゃないかなというように感じているのか、保護者の方はどう感じているのか、その辺を、自分たちは中学3年生ですから、先のことも見据えて、しっかり意見を出していただければなど思っています。</p> <p>もう一つは、今現在、小学校2年生、この子たちは令和2年度の入学式から、入った時点でコロナで、学校生活はこんなものだと思って生活してきている子どもたちなので、マスクをすることにも何の違和感もなく、給食を食べるとき、先ほど言いましたけど、黙って食べることも違和感はなく、友達と手をつないで走ったりとかすることもないのが小学校だと思ってきている子どもたちの意識と、それと、それで大丈夫かしらと不安に思っているらっしゃるだろう保護者の方たち、小学校の生活を、どうなるんだろうと期待と不安でいっぱいの子どもと保護者の方たちが、どう考えているのかということをやっぱり比較したいなと思いますので、その人だと令和4年度で小学校3年生かなと感じています。令和4年度で3年生。</p>
<p>前田児童青 少年係長</p>	<p>ありがとうございます。これですよね。</p> <p>今の八木委員の御意見について、事務局のほうでは、ぱっとお伺いしたところだと、それぞれの学年に聞きたいことが違う感じがするんです。そうすると、例えばそれを取りました、提言としてまとめていきます、既にここで3テーマになっていくんですよね。ネットリテラシーも入れたいというお話もありましたし。</p>
<p>八木委員</p>	<p>同じ設問をしても、状況が違えば違う回答が出てくるということ、それが当然だと思っている人にとってみれば、いろいろな授業がないことに関して、不安とかそういうものは感じていないということが出てくるでしょうし、同じ設問をしても、一回経験していった子どもたちは、ないことに関して、自分たちにとってはそれは大事なものだということを再認識するとか、そのような表章になってくるんじゃないかなと思います。</p>
<p>前田児童青 少年係長 後藤委員</p>	<p>では、その辺りの具体的な質問項目についても、発言いただけると。</p> <p>今、八木委員のおっしゃっていたように、私も同じ設問でいいので</p>

前田児童青 少年係長 浅野委員長	<p>はないかなと、はい。</p> <p>では、イメージとしては、どの学年も同じ設問でいくイメージで選ばれているということですね。</p> <p>その他、御意見はいかがでしょうか。なかなか1つに決め切れないなというところもありますけど、ちょっとこれも、持ち帰って再検討の必要性はありますね。</p> <p>小学校3年生が答えられるアンケートの限度がどのぐらいかということもあります。4年生以上でやったというのは、3年生と4年生は明らかに違いますので、1学年差であっても、どれほどのアンケートに答えられるかなというところの危惧は、正直ありますので、そこも含めて御検討いただくということになりますかね。</p>
前田児童青 少年係長	<p>学年については一応、それでいいですか。今、ぱっと決められない。</p> <p>そうですね。ちょっと設問をつくりつつ、御提示できればと思いますが、とても参考になりました。ありがとうございます。</p> <p>それと、まだ私の中でイメージがついていないので、全部に共通する設問、こんな感じ、これを聞いてほしいという具体的なところも、今日、もし出せなければ、期限を切って事務局に後日という形で、御案内をさせていただこうと思いますので、御協力いただければと思います。年齢については、この辺りで大丈夫です。</p>
浅野委員長	<p>あとは、経年比較についてはいかがでしょうか。</p> <p>いかがいたしましょうか。</p> <p>単純に経年比較できるものとそうじゃないものというのがあると、実際、先ほども申し上げたとおり、前回のアンケートはコロナ禍の前を取っていますから、そのときの状況と今、大変なことは明らかに違うところもありますので、単純に経年比較できるものとそうではないものがあるということは確かですね。</p>
前田児童青 少年係長 浅野委員長	<p>いずれにしても、アンケート項目がある程度固まってこないと、分からないですよ。</p> <p>分かりました。</p> <p>これで、経年でいけるのか、あるいは、今回はそういう条件にはならないのかということも、ある程度、4月までにアンケート項目が固まってくれば考えられると思いますので、ですけど、次回の前に、ある程度の案を皆様にお送りいただいて、期限を切って御回答いただく、</p>

前田 児童青 少年係長	<p>御意見をいただくというのはいかがでしょうか。</p> <p>事務局です。分かりました。ありがとうございます。</p> <p>そうしましたら、今日いただいた御意見を、まとめというか、振り返りをさせていただきたいんですけれども、コロナの関係は大体分かりました。不安感の部分、機会喪失の影響、それと、在宅ワークとかの家庭の変化に伴うことの辺りでまとめていきたいなと思います。</p> <p>それと、子どもから見た大人の評価というのが、どこに含められるかは分からないんですが、検討したいかなと思います。</p> <p>ネットリテラシー、ICTの関係で、こちらについては、格差の問題と、あと、先ほど、使い方、スキルとしての話が複数の委員から出ていたかなと思いますので、その辺り、何か聞ける設問が思いつくかなと確認してみたいなと思います。</p> <p>それと、この辺はインターネットのトラブルとかそういう方向じゃなくて、リテラシー、使い方だったり、それに、ネット社会での、何と言ったらいいか、インターネットの中の何かではなくて、自分たちが使っている、その周辺について聞く感じでいいですかね。使い方もうさだし、時間を決めているのとかもそうだし、使っているところの周辺のイメージで大丈夫ですか。</p>
浅野委員長	<p>そんな感じですね、使い方の部分を含め。ネットいじめだとか、そういうこととはちょっと違うイメージなので、よろしいです。</p>
前田 児童青 少年係長	<p>分かりました。ありがとうございます。</p> <p>そうしましたら、ちょっと今、日程としてお伝えしづらいんですが、まず、第3回の専門委員会の日程について、事前調整が終わっていますので、先に御案内をさせていただきます。</p> <p>2月4日、金曜日の10時から、市役所本庁舎第一会議室で行いたいと思っております。</p> <p>先ほど専門委員長のほうから、その前に事前に、設問はこんなイメージでどうですかという確認をとということなので、1月中旬ぐらいまでに送ればなと思いますが、2週間前までをめぐり一度、案を御覧いただき、それに対する意見を先に確認をさせてもらいながら、資料は当日配付になるかもしれませんが、そういった形で動ければなと思っております。</p>
大貫委員	<p>ちょっと私、2月4日は先約が入っていたので、申し訳ありません、欠席になります。</p>

前田児童青  
少年係長

分かりました。ありがとうございます。

すみません、会議室があまり取れずに、決め打ちでの御案内になって大変恐縮です。

では取り急ぎ、もし今の設問づくりについて、先に御意見をいただける方につきましても、年始を挟みますが、1月6日、木曜日までに、メールでも電話でも構いませんので、児童青少年課、前田までいただければ大変助かります。

その内容も踏まえまして、私のほうで資料づくりを行い、20日頃までには一度、お送りさせていただきます。1週間ぐらい見ていただいて、御意見を反映したものを、2月4日の資料でお配りできればなというようなスケジュール感でいければと思っております。

保護者に聞くのも、子どもと保護者を対比するというイメージで、取りあえず1個だけ、子ども用として作ります。それを保護者向けに、「あなたのお子さんは」に換えるとか、そういう形で修正をしていきたいなと思っておりますので、子ども向け一票だけ送らせていただくイメージでおりますので、お願いします。

なお、本体会議への御報告なんですけれども、まだ本体会議の日程が定まっていらないんですが、3月下旬に本体会議開催の予定で今、調整をしております。そちらも、次回までには御報告できると思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

浅野委員長

ありがとうございました。

限られた時間でありまして、皆様から非常に建設的な御意見をいただきまして、方向性がまとまったというのが、今日の大きな収穫だったと思います。

今のスケジュールで、事務局からのまた提案等もありますので、次回、2月4日、金曜日、10時からですが、質問項目を中心に協議を進めていきたいと考えております。

そういうことでよろしいでしょうか。

前田児童青  
少年係長

はい。

浅野委員長

それでは、これをもちまして、第2回の専門委員会は閉会といたします。ありがとうございました。

	— 了 —
--	-------